

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】令和3年3月11日(2021.3.11)

【公表番号】特表2020-508985(P2020-508985A)

【公表日】令和2年3月26日(2020.3.26)

【年通号数】公開・登録公報2020-012

【出願番号】特願2019-543376(P2019-543376)

【国際特許分類】

A 61 K 47/60 (2017.01)

A 61 P 35/00 (2006.01)

A 61 K 31/451 (2006.01)

【F I】

A 61 K 47/60

A 61 P 35/00

A 61 K 31/451

【手続補正書】

【提出日】令和3年1月28日(2021.1.28)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

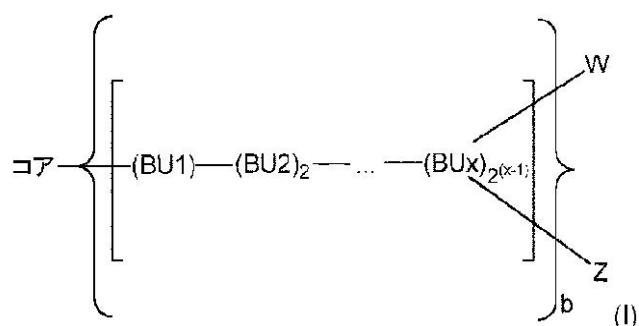
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

式(I)：

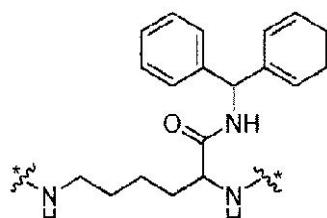
【化1】



〔式中：

コアは

【化2】



であり

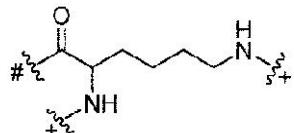
\*は、(BU1)のカルボニル部分への共有結合を示し；

bは2であり；

B U はビルディングユニットであり；

B U<sub>x</sub> は、x 世代のビルディングユニットであり、ここで、式(I)の前記デンドリマーのx 世代のビルディングユニットの総数は  $2^{(x)}$  に等しく、式(I)の前記デンドリマー中の B U の総数は  $(2^x - 1)b$  に等しく；ここで、B U は以下の構造：

【化3】



を有し；

# は、コアのアミン部分又は B U のアミノ部分への共有結合を示し；

+ は、B U のカルボニル部分への共有結合又は W 若しくは Z への共有結合を示し；

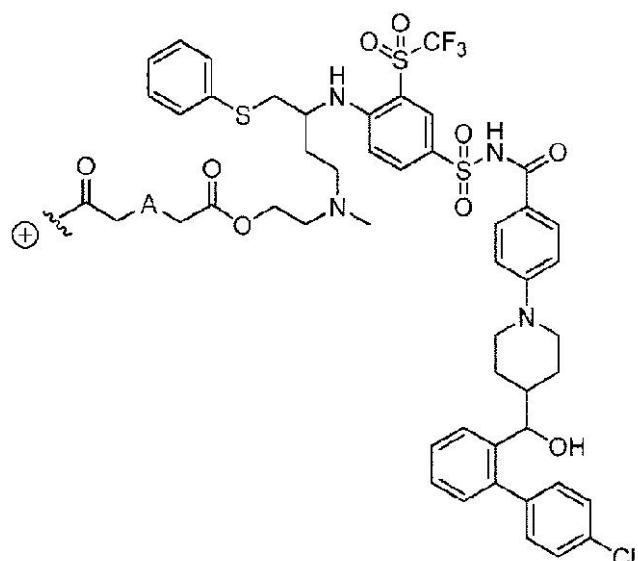
W は、独立に、(PM)<sub>c</sub> 又は(H)<sub>e</sub> であり；

Z は、独立に、(L-AA)<sub>d</sub> 又は(H)<sub>e</sub> であり；

PM は、PEG<sub>900~1200</sub> 又は PEG<sub>1800~2400</sub> であり；

L-AA は、活性薬剤に共有結合しているリンカーであり；ここで、L-AA は、式：

【化4】



(式中

A は、-N(CH<sub>3</sub>)、-O-、-S-、又は-CH<sub>2</sub>- であり；

【化5】

⊕

は、B U<sub>x</sub> のアミン部分への結合点である)

のものであり；

但し、(c+d)  $< (2^x)b$  且つ d が 1 であることを条件とし；且つ

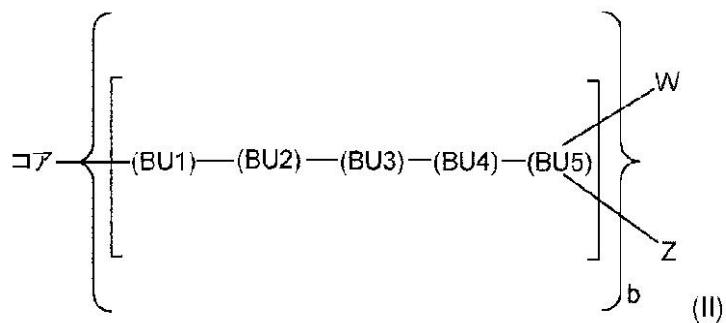
但し、(c+d)  $< (2^x)b$  である場合、あらゆる残りの W 及び Z 基が (H)<sub>e</sub> であることを条件とする (式中、e は [(2<sup>x</sup>)b] - (c+d) である) 】

で示されるのデンドリマー、又はその薬学的に許容できる塩。

【請求項 2】

式(II)：

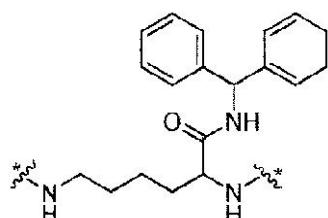
## 【化6】

式中

bは2であり；

コアは

【化7】

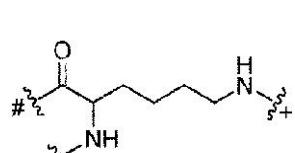


であり

\*は、(BU1)のカルボニル部分への共有結合を示し；

BUはビルディングユニットであり、BUの数は62に等しく；ここで、BUは以下の構造：

【化8】

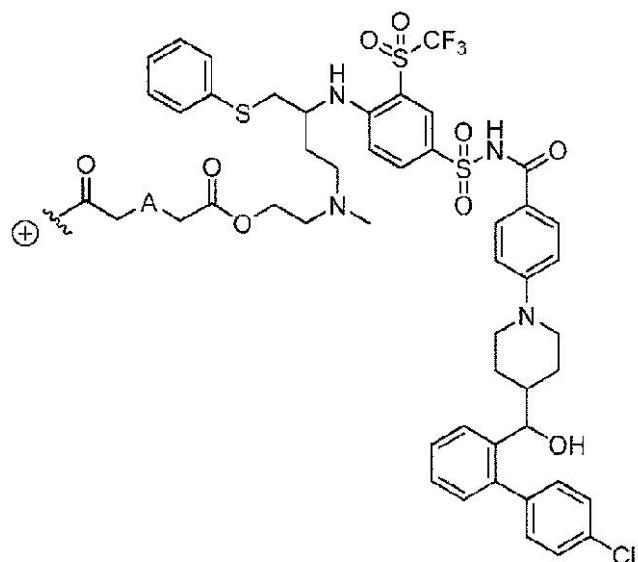
を有し；

#は、コアのアミン部分又はBUのアミノ部分への共有結合を示し、+は、BUのカルボニル部分への共有結合又はW若しくはZへの共有結合を示し；

Wは、独立に、(PM)<sub>c</sub>又は(H)<sub>e</sub>であり；Zは、独立に、(L-AA)<sub>d</sub>又は(H)<sub>e</sub>であり；PMは、PEG<sub>900~1200</sub>又はPEG<sub>1800~2400</sub>であり；

L-AAは、活性薬剤に共有結合しているリンカーであり；ここで、L-AAは、式：

【化9】



(式中

Aは、-N(CH<sub>3</sub>)、-O-、-S-、又は-CH<sub>2</sub>-であり；

【化10】

⊕

は、B U 5のアミン部分への共有結合を示す)

のものであり；

但し、(c+d)が64であり、且つdが1であることを条件とし；且つ  
 $(c+d) < 64$ である場合、あらゆる残りのW及びZ基が(H)<sub>e</sub>であることを条件とする(式中、eは64-(c+d)である)】  
で示されるデンドリマー、又はその薬学的に許容できる塩。

【請求項3】

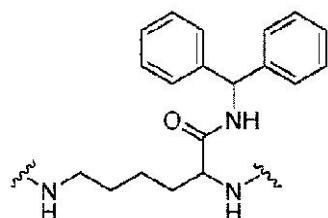
式(I I I)：

D-コア-D(I I I)

【式中

コアは

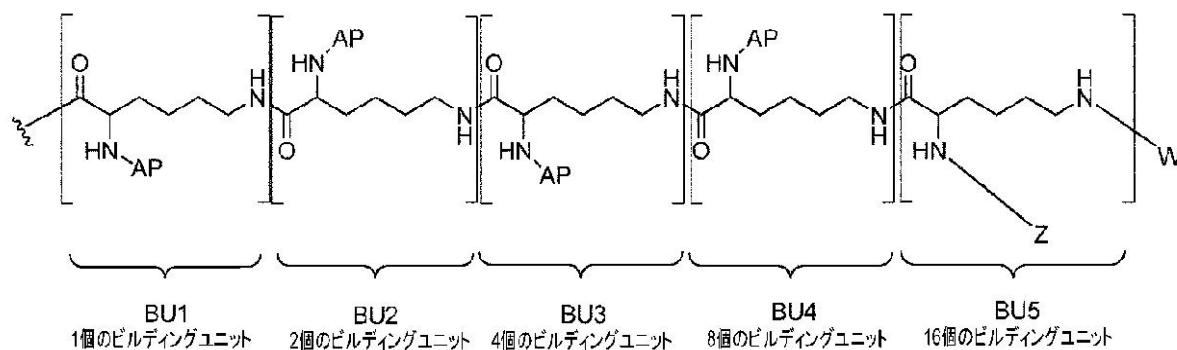
【化11】



であり

Dは

## 【化12】



であり

APは、別のビルディングユニットへの結合点であり；

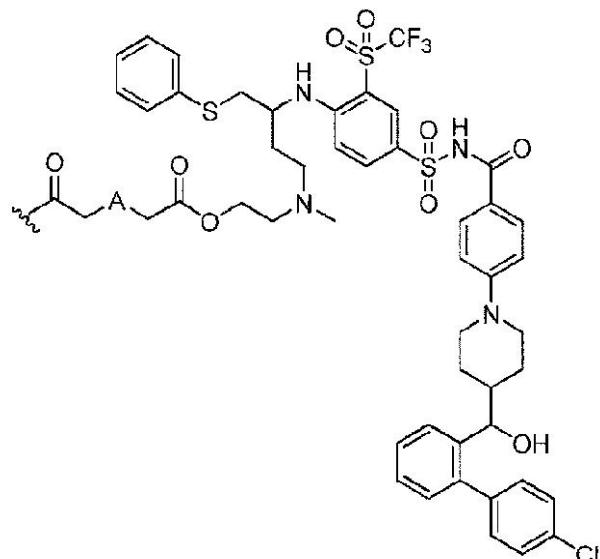
Wは、独立に、(PM)<sub>c</sub>又は(H)<sub>e</sub>であり；

Zは、独立に、(L-AA)<sub>d</sub>又は(H)<sub>e</sub>であり；

PMは、PEG<sub>900~1200</sub>又はPEG<sub>1800~2400</sub>であり；

L-AAは、活性薬剤に共有結合しているリンカーであり；ここで、L-AAは、式：

## 【化13】



(式中

Aは、-N(CH<sub>3</sub>)、-O-、-S-、又は-CH<sub>2</sub>-である)

のものであり；

但し、(c+d) < 64である場合、あらゆる残りのW及びZ基が(H)<sub>e</sub>であることを条件とし(式中、eは64-(c+d)である)；且つdが1であることを条件とする

1

で示されるデンドリマー、又はその薬学的に許容できる塩。

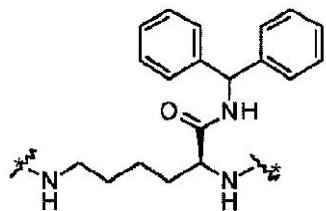
## 【請求項4】

xが5である、請求項1に記載のデンドリマー、又はその薬学的に許容できる塩。

## 【請求項5】

コアが

【化14】

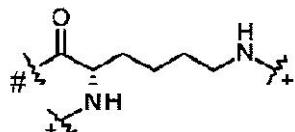


である、請求項1～4のいずれか一項に記載のデンドリマー、又はその薬学的に許容できる塩。

【請求項6】

B U が

【化15】



である、請求項1～5のいずれか一項に記載のデンドリマー、又はその薬学的に許容できる塩。

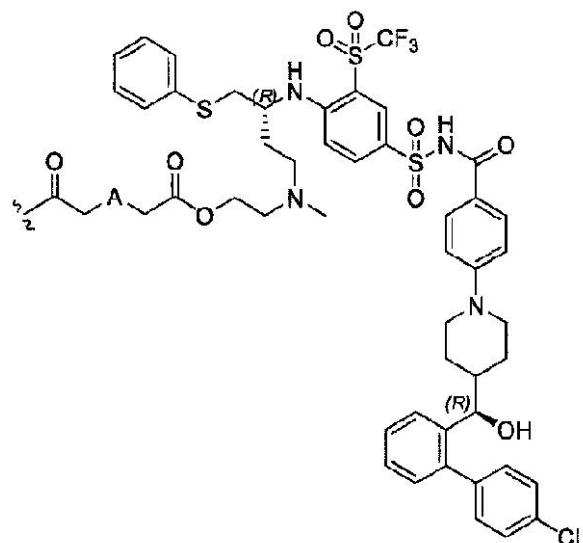
【請求項7】

P M が P E G <sub>1 8 0 0</sub>～<sub>2 4 0 0</sub>である、請求項1～6のいずれか一項に記載のデンドリマー、又はその薬学的に許容できる塩。

【請求項8】

L - A A が

【化16】



である、請求項1～7のいずれか一項に記載のデンドリマー、又はその薬学的に許容できる塩。

【請求項9】

A が -N(C<sub>2</sub>H<sub>5</sub>)である、請求項1～8のいずれか一項に記載のデンドリマー、又はその薬学的に許容できる塩。

【請求項10】

c が 29～32 の整数から選択され、d が 29～32 の整数から選択される、請求項1～9のいずれか一項に記載のデンドリマー、又はその薬学的に許容できる塩。

【請求項11】

e が 0 ~ 6 の整数から選択される、請求項 1 ~ 10 のいずれか一項に記載のデンドリマー、又はその薬学的に許容できる塩。

**【請求項 12】**

前記 PEG の平均分子量が 2000 ~ 2200 Da である、請求項 1 ~ 11 のいずれか一項に記載のデンドリマー、又はその薬学的に許容できる塩。

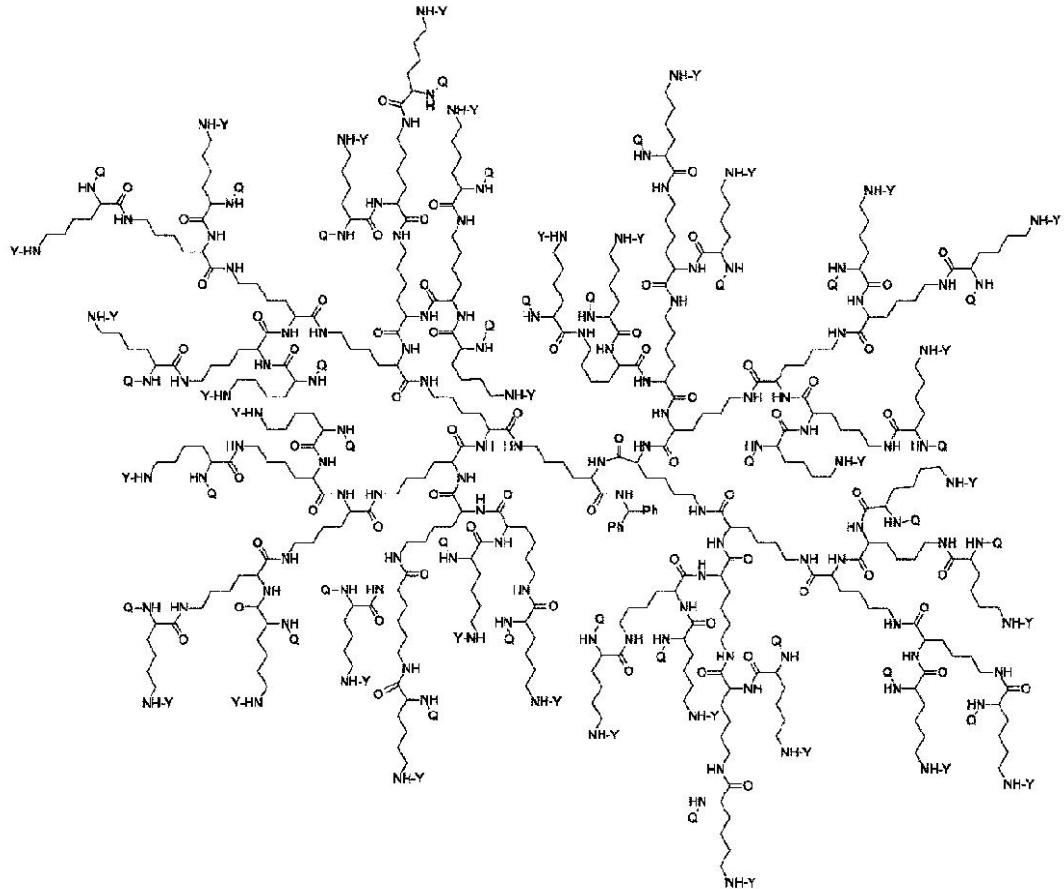
**【請求項 13】**

デンドリマーの分子量が約 103 ~ 約 107 kDa である、請求項 1 ~ 12 のいずれか一項に記載のデンドリマー、又はその薬学的に許容できる塩。

**【請求項 14】**

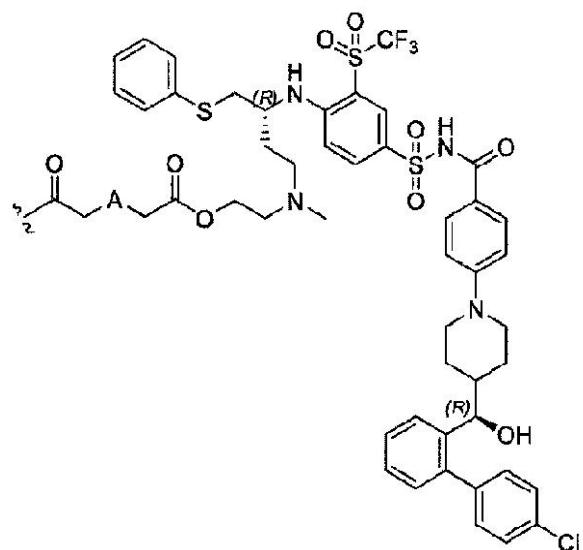
式 (IV) :

**【化 17】**



式中、Y は、PEG<sub>1800 ~ 2400</sub> 又は H であり；Q は、H 又は L-AA であり、ここで、L-AA は以下の構造：

## 【化18】



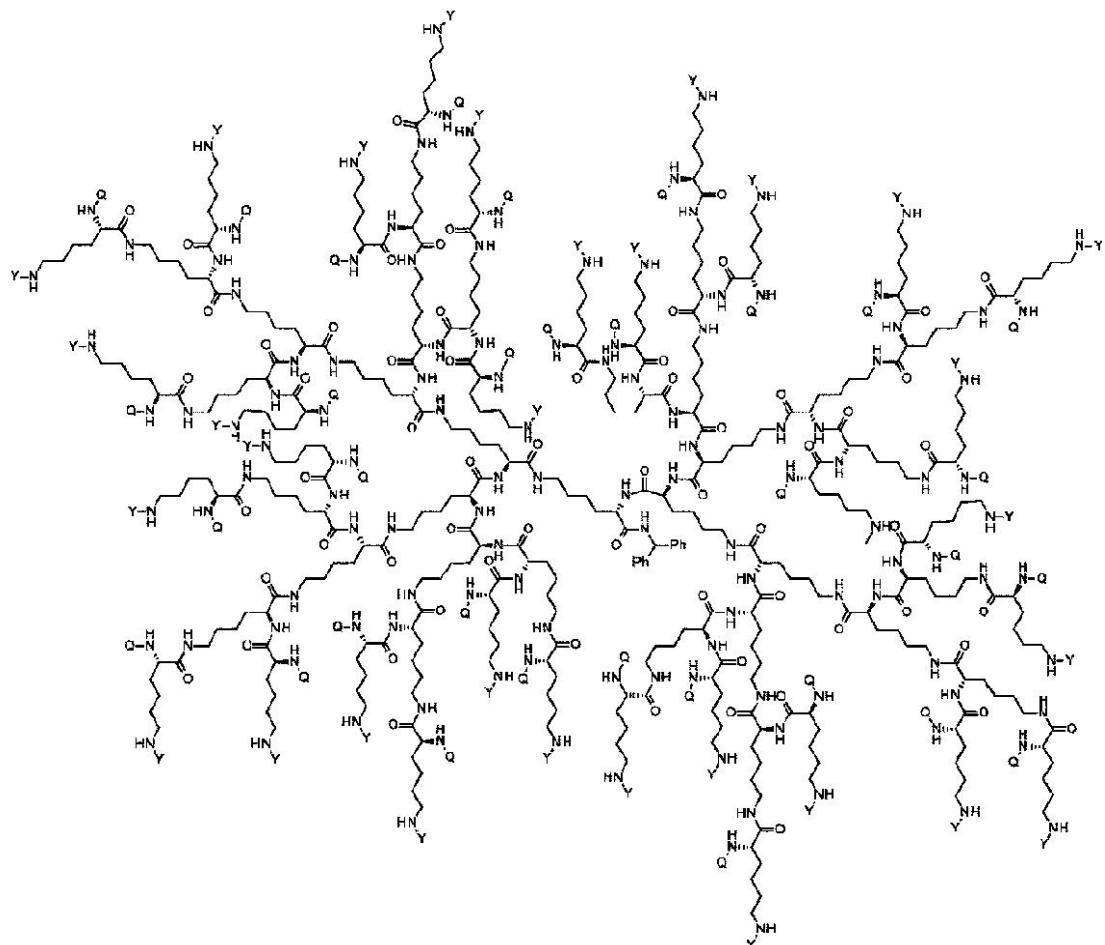
を有し；Aは、-N(CH<sub>3</sub>)であり、但し、PEG<sub>1800~2400</sub>とL-AAの和が64未満である場合、残りのQ及びY部分がHであることを条件とし、且つ少なくとも1つのQがL-AAであることを条件とする】

で示されるデンドリマー、又はその薬学的に許容できる塩である、請求項1~3のいずれか一項に記載のデンドリマー、又はその薬学的に許容できる塩。

## 【請求項15】

式(V)：

【化19】



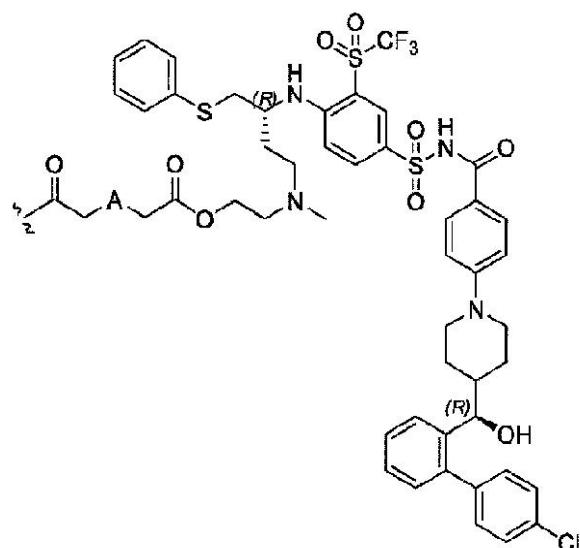
(V)

[式中

Yは、PEG<sub>1800~2400</sub>又はHであり；

Qは、H又はL-AAであり、ここで、L-AAは以下の構造：

【化20】



を有し；Aは、-N(CH<sub>3</sub>)であり、但し、PEG<sub>1800~2400</sub>とL-AAの和が64未満である場合、残りのQ及びY部分がHであることを条件とし、且つ少なくとも1つのQがL-AAであることを条件とする】

で示されるデンドリマー、又はその薬学的に許容できる塩である、請求項 1～3 のいずれか一項に記載のデンドリマー、又はその薬学的に許容できる塩。

【請求項 16】

請求項 1～15 のいずれか一項に記載のデンドリマー又はその薬学的に許容できる塩、及び薬学的に許容できる賦形剤、担体、又は希釈剤を含む医薬組成物。

【請求項 17】

血液系癌又は固形腫瘍を治療するための、請求項 16 に記載の医薬組成物。

【請求項 18】

血液系癌が、T 細胞白血病、T 細胞リンパ腫、急性リンパ球性リンパ腫、急性骨髓性白血病、慢性リンパ球性白血病、小リンパ球性リンパ腫、慢性骨髓性白血病、急性单球性白血病、多発性骨髓腫、マントル細胞リンパ腫、びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫、バーキットリンパ腫、非ホジキンリンパ腫及び濾胞性リンパ腫から選択される、請求項 17 に記載の医薬組成物。

【請求項 19】

固形腫瘍が、非小細胞肺癌、小細胞肺癌、乳癌、神経芽細胞腫、卵巣癌、前立腺癌、メラノーマ、脾臓癌、子宮癌、子宮内膜癌及び結腸癌から選択される、請求項 17 に記載の医薬組成物。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0332

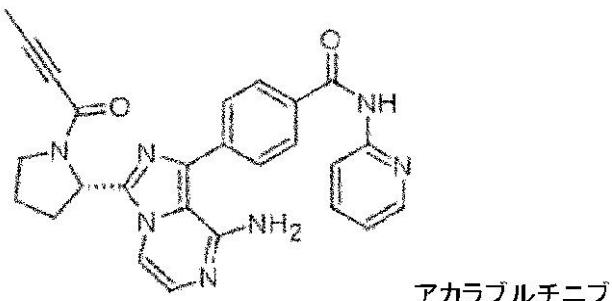
【補正方法】変更

【補正の内容】

【0332】

図 19 に示される通り、実施例 9 とアカラブルチニブを組み合わせると、O C I - L y 10 D L B C L 異種移植片モデルにおいて著しいインビボ抗腫瘍活性が生じた。12.5 mg / kg アカラブルチニブの 1 日 2 回経口投与と組み合わせた、103 mg / kg の実施例 9 (30 mg / kg 化合物 A) の週に 1 回の静脈内投与は、処置開始の 10 日後に 8 匹の担癌マウスのうち 8 匹に完全退縮をもたらした。完全退縮は、処置終了後でも維持された (3 週の処置と 35 日の継続管理)。対照的に、単剤の実施例 9 又はアカラブルチニブは、比較的控えめな単剤活性を示し、それぞれ、およそ 64 % 及び 58 % 腫瘍成長阻害 (T G I) に達した。

【化 6 9】

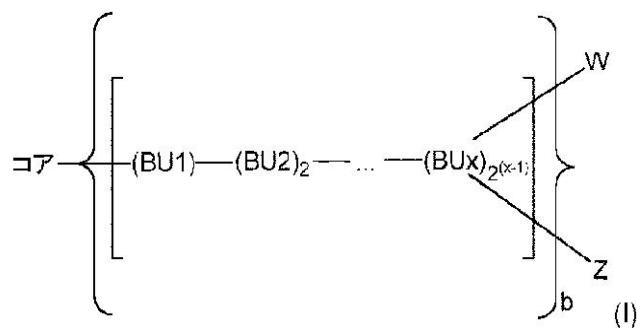


本発明は、下記の態様も包含する。

【態様 1】

式 (I) のデンドリマー

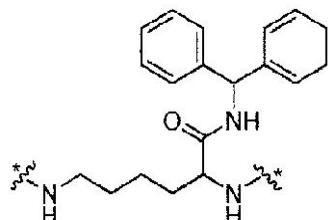
【化70】



又はその薬学的に許容できる塩(式中:

コアは

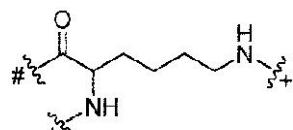
【化71】



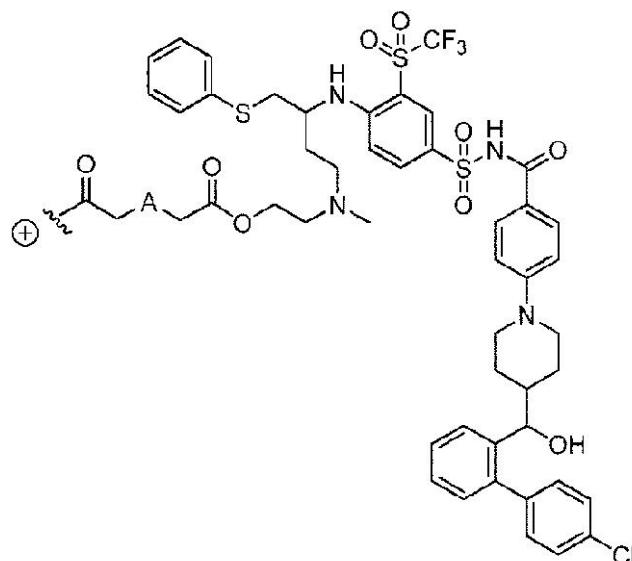
であり

\* は、(BU1)のカルボニル部分への共有結合を示し；b は 2 であり；BU はビルディングユニットであり；BU<sub>x</sub> は、x世代のビルディングユニットであり、ここで、式(I)の前記デンドリマーのx世代のビルディングユニットの総数は2<sup>(x)</sup>に等しく、式(I)の前記デンドリマー中のBUの総数は(2<sup>x</sup>-1)bに等しく；ここで、BUは以下の構造を有し：

【化72】

# は、コアのアミン部分又はBUのアミノ部分への共有結合を示し；+ は、BUのカルボニル部分への共有結合又はW若しくはZへの共有結合を示し；W は、独立に、(PM)<sub>c</sub> 又は(H)<sub>e</sub> であり；Z は、独立に、(L-AA)<sub>d</sub> 又は(H)<sub>e</sub> であり；PM は、PEG<sub>900~1200</sub> 又はPEG<sub>1800~2400</sub> であり；L-AA は、活性薬剤に共有結合しているリンカーであり；ここで、L-AA は、式：

【化73】

のものであり式中Aは、-N(CH<sub>3</sub>)<sub>2</sub>、-O-、-S-、又は-CH<sub>2</sub>-であり；

【化74】

⊕

は、BU<sub>x</sub>のアミン部分への結合点であり；但し、(c+d)(2<sup>x</sup>)b且つdが1であることを条件とし；且つ但し、(c+d) < (2<sup>x</sup>)bである場合、あらゆる残りのW及びZ基が(H)<sub>e</sub>であることを条件とする（式中、eは[(2<sup>x</sup>)b]-(c+d)である）。

[ 様様 2 ]

bが2であり、xが5である、態様1に記載のデンドリマー。

[ 様様 3 ]

PMがPEG<sub>900~1200</sub>である、態様1又は2に記載のデンドリマー。

[ 様様 4 ]

Aが-O-である、態様1~3のいずれか一つに記載のデンドリマー。

[ 様様 5 ]

PMがPEG<sub>1800~2400</sub>である、態様2に記載のデンドリマー。

[ 様様 6 ]

Aが-O-である、態様5に記載のデンドリマー。

[ 様様 7 ]

Aが-(CH<sub>2</sub>)-である、態様5に記載のデンドリマー。

[ 様様 8 ]

Aが-S-である、態様5に記載のデンドリマー。

[ 様様 9 ]

Aが-N(CH<sub>3</sub>)<sub>2</sub>である、態様5に記載のデンドリマー。

[ 様様 10 ]

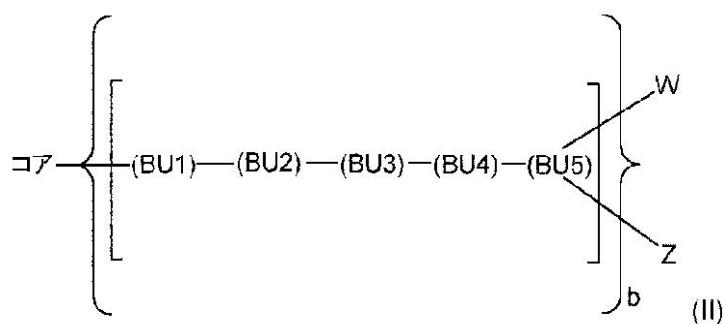
前記PEGが約2000~約2200Daの平均分子量を有する、態様5~9のいずれか一つに記載のデンドリマー。

[ 様様 11 ]

前記PEGが約2150Daの平均分子量を有する、態様10のいずれか一つに記載のデンドリマー。

[ 様様 12 ]

式(II)のデンドリマー：  
【化75】

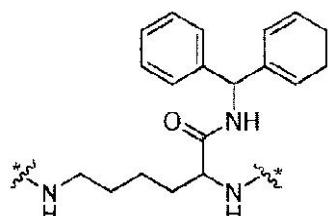


又はその薬学的に許容できる塩(式中

bは2であり；

コアは

【化76】

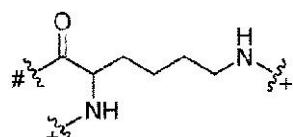


であり

\*は、(BU1)のカルボニル部分への共有結合を示し；

BUはビルディングユニットであり、BUの数は62に等しく；ここで、BUは以下の構造を有し：

【化77】



#は、コアのアミン部分又はBUのアミノ部分への共有結合を示し、+は、BUのカルボニル部分への共有結合又はW若しくはZへの共有結合を示し；

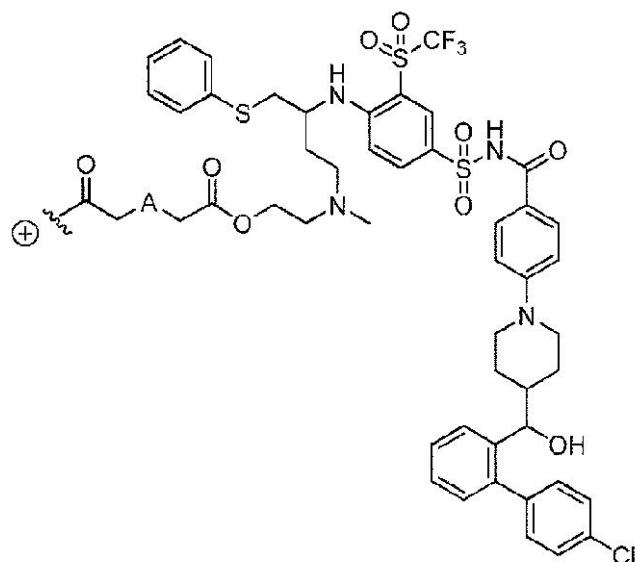
Wは、独立に、(PM)c又は(H)eであり；

Zは、独立に、(L-AA)d又は(H)eであり；

PMは、PEG900~1200又はPEG1800~2400であり；

L-AAは、活性薬剤に共有結合しているリンカーであり；ここで、L-AAは、式：

【化78】

のものであり式中Aは、-N(CH<sub>3</sub>)、-O-、-S-、又は-CH<sub>2</sub>-であり；

【化79】

⊕

は、B U 5 のアミン部分への共有結合を示し；但し、(c+d)が64であり、且つdが1であることを条件とし；且つ(c+d)<64である場合、あらゆる残りのW及びZ基が(H)であることを条件とする（式中、eは64-(c+d)である）。

[ 態様13 ]

P MがPEG<sub>900~1200</sub>である、態様12に記載のデンドリマー。

[ 態様14 ]

Aが-O-である、12又は13に記載のデンドリマー。

[ 態様15 ]

P MがPEG<sub>1800~2400</sub>である、態様12に記載のデンドリマー。

[ 態様16 ]

Aが-O-である、態様15に記載のデンドリマー。

[ 態様17 ]

Aが-(CH<sub>2</sub>)-である、態様15に記載のデンドリマー。

[ 態様18 ]

Aが-S-である、態様15に記載のデンドリマー。

[ 態様19 ]

Aが-N(CH<sub>3</sub>)である、態様15に記載のデンドリマー。

[ 態様20 ]

前記PEGが約2000~約2200Daの平均分子量を有する、態様15~19のいずれか一つに記載のデンドリマー。

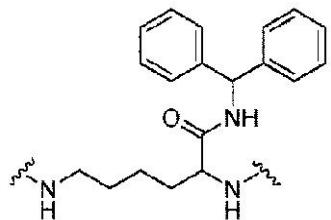
[ 態様21 ]

前記PEGが約2150Daの平均分子量を有する、態様20に記載のデンドリマー。

[ 態様22 ]

式(III)のデンドリマー：D-コア-D(III)又はその薬学的に許容できる塩（式中

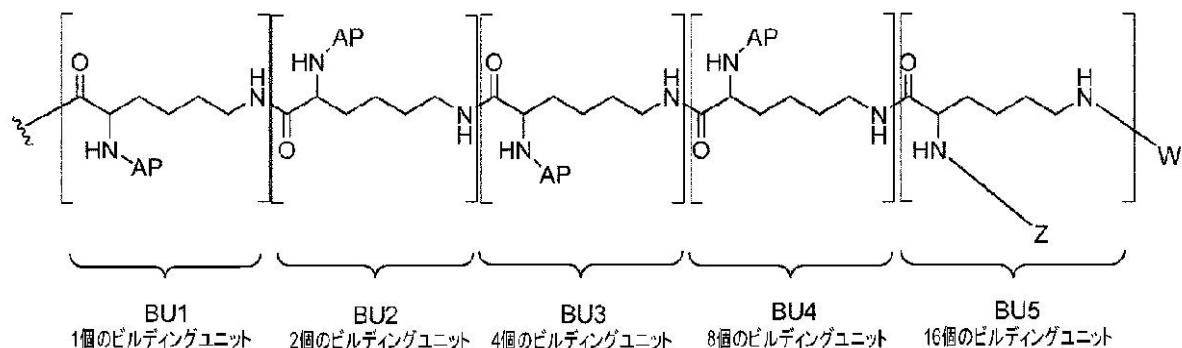
コアは  
【化80】



であり

Dは

【化81】



であり

A Pは、別のビルディングユニットへの結合点であり；

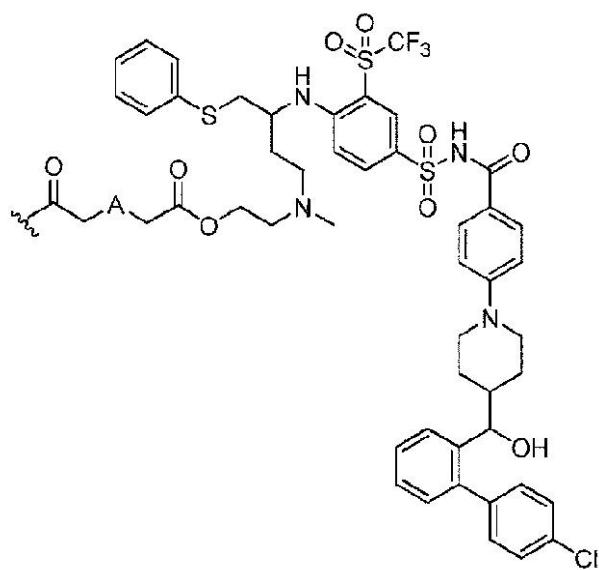
Wは、独立に、(P M)<sub>c</sub>又は(H)<sub>e</sub>であり；

Zは、独立に、(L - AA)<sub>d</sub>又は(H)<sub>e</sub>であり；

P Mは、PEG<sub>9,000~12,000</sub>又はPEG<sub>18,000~24,000</sub>であり；

L - AAは、活性薬剤に共有結合しているリンカーであり；ここで、L - AAは、式：

【化82】



のものであり

式中

Aは、-N(CH<sub>3</sub>)、-O-、-S-、又は-CH<sub>2</sub>-であり；

但し、(c+d) < 64である場合、あらゆる残りのW及びZ基が(H)<sub>e</sub>であることを条件とし（式中、eは64-(c+d)である）；且つdが1であることを条件とする

)。

[ 態様 2 3 ]

P M が P E G <sub>9 0 0 ~ 1 2 0 0</sub> である、態様 2 2 に記載のデンドリマー。

[ 態様 2 4 ]

A が - O - である、態様 2 3 に記載のデンドリマー。

[ 態様 2 5 ]

P M が P E G <sub>1 8 0 0 ~ 2 4 0 0</sub> である、態様 2 2 に記載のデンドリマー。

[ 態様 2 6 ]

A が - O - である、態様 2 5 に記載のデンドリマー。

[ 態様 2 7 ]

A が - ( C H <sub>2</sub> ) - である、態様 2 5 に記載のデンドリマー。

[ 態様 2 8 ]

A が - S - である、態様 2 5 に記載のデンドリマー。

[ 態様 2 9 ]

A が - N ( C H <sub>3</sub> ) である、態様 2 5 に記載のデンドリマー。

[ 態様 3 0 ]

前記 P E G が約 2 0 0 0 ~ 約 2 2 0 0 D a の平均分子量を有する、態様 2 5 ~ 2 9 のいずれか一つに記載のデンドリマー。

[ 態様 3 1 ]

前記 P E G が約 2 1 5 0 D a の平均分子量を有する、態様 3 0 に記載のデンドリマー。

[ 態様 3 2 ]

c が 2 5 ~ 約 3 2 の整数である、態様 1 ~ 3 1 のいずれか一つに記載のデンドリマー。

[ 態様 3 3 ]

c が 2 9 ~ 3 2 の整数である、態様 3 2 に記載のデンドリマー。

[ 態様 3 4 ]

c が 2 9 又は 3 0 である、態様 3 3 に記載のデンドリマー。

[ 態様 3 5 ]

d が 2 5 ~ 3 2 の整数である、態様 1 ~ 3 4 のいずれか一つに記載のデンドリマー。

[ 態様 3 6 ]

d が 2 9 ~ 3 2 の整数である、態様 3 5 に記載のデンドリマー。

[ 態様 3 7 ]

d が 3 2 である、態様 3 6 に記載のデンドリマー。

[ 態様 3 8 ]

( c + d ) が 5 0 ~ 6 4 の整数に等しい、態様 1 ~ 3 7 のいずれか一つに記載のデンドリマー。

[ 態様 3 9 ]

( c + d ) が 5 8 ~ 6 4 の整数に等しい、態様 3 8 に記載のデンドリマー。

[ 態様 4 0 ]

e が 0 ~ 1 4 の整数である、態様 1 ~ 3 9 のいずれか一つに記載のデンドリマー。

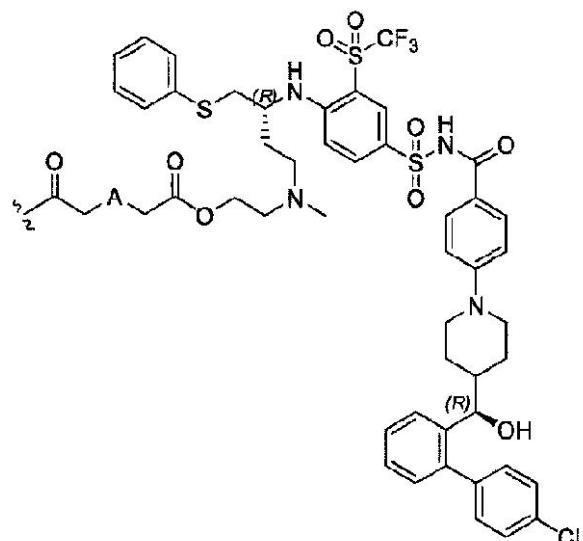
[ 態様 4 1 ]

e が 0 ~ 6 の整数である、態様 4 0 に記載のデンドリマー。

[ 態様 4 2 ]

L - A A が

【化83】

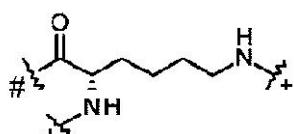


である、態様1～41のいずれか一つに記載のデンドリマー。

[態様43]

B Uが

【化84】

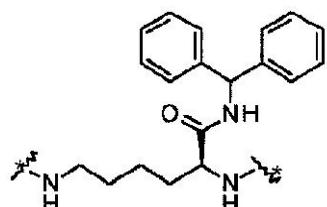


である、態様1～42のいずれか一つに記載のデンドリマー。

[態様44]

コアが

【化85】

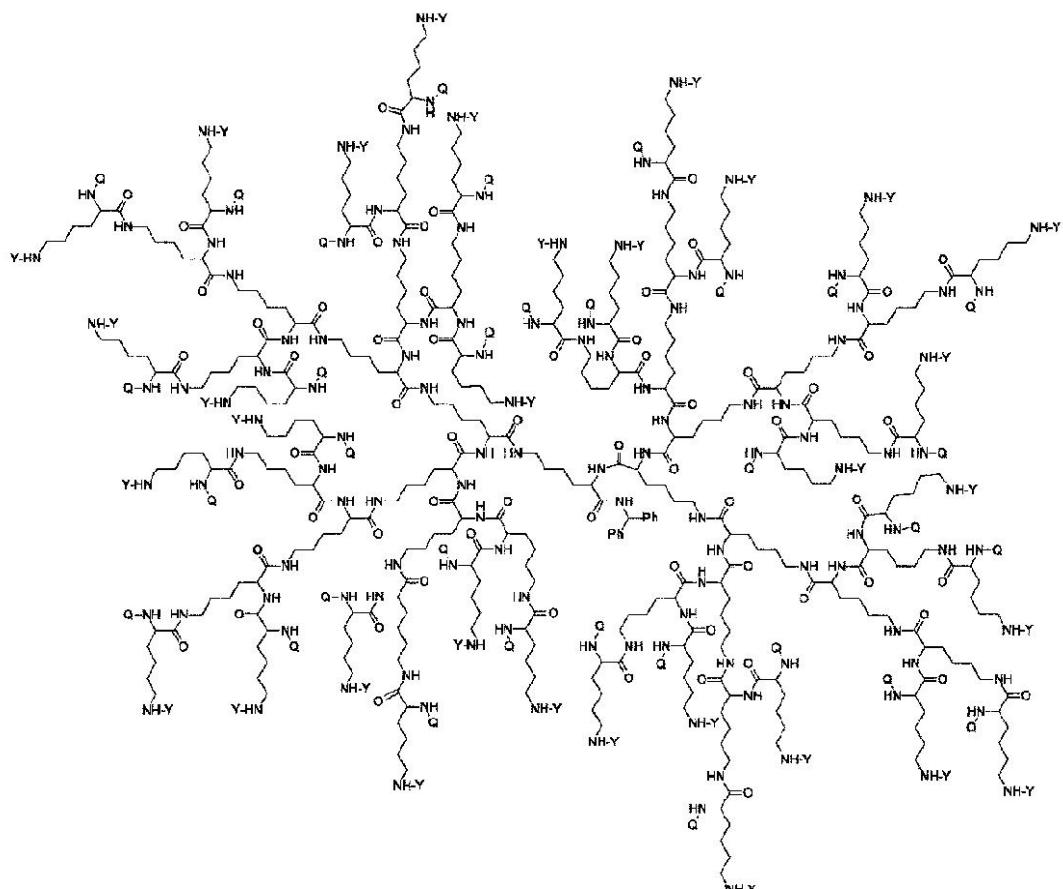


である、態様1～43のいずれか一つに記載のデンドリマー。

[態様45]

式(IV)のデンドリマー：

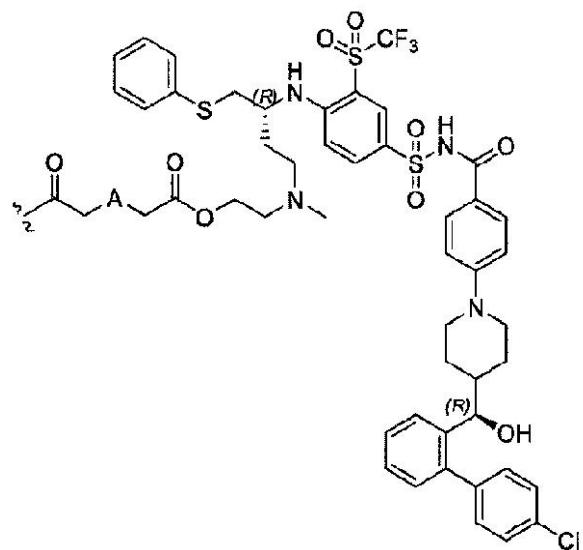
## 【化 8 6】



(IV)

又はその薬学的に許容できる塩(式中、Yは、PEG<sub>1800~2400</sub>又はHであり；Qは、H又はL-AAであり、ここで、L-AAは以下の構造を有し：

## 【化 8 7】

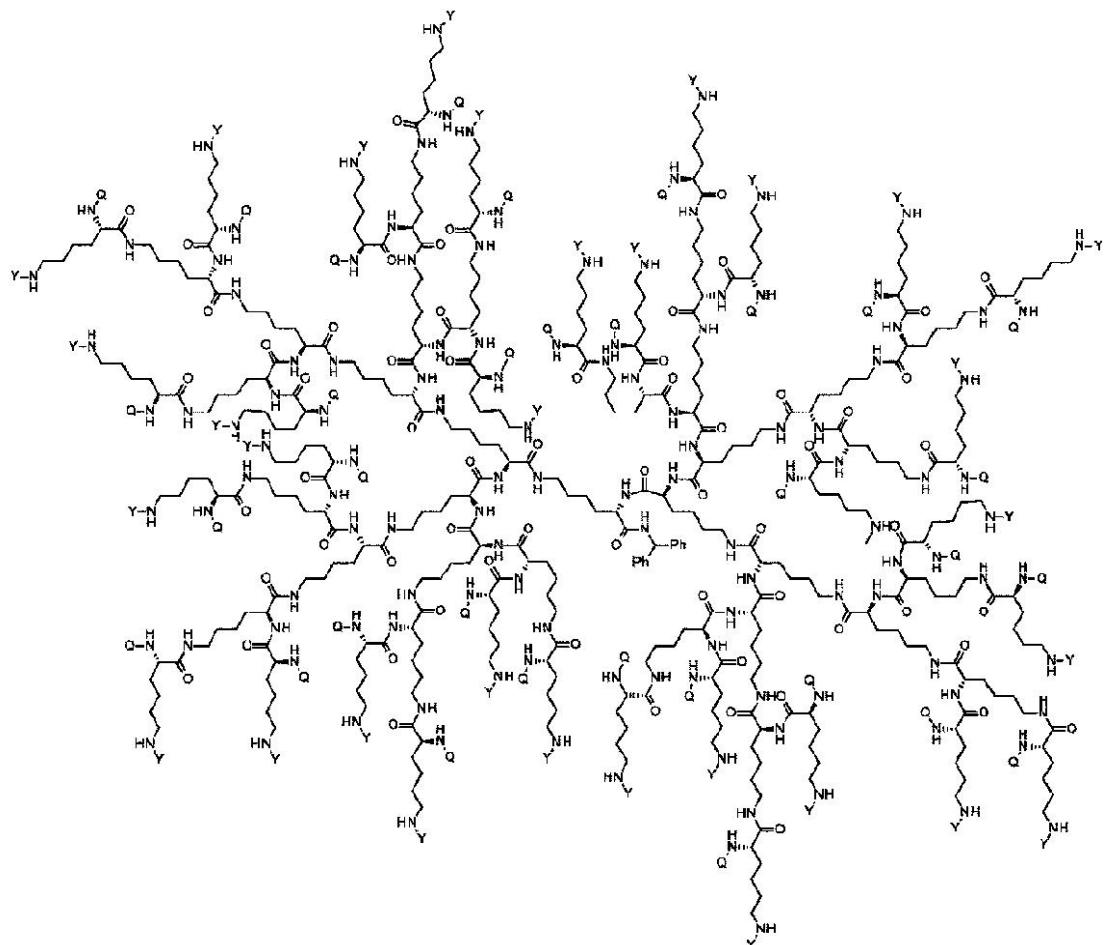


Aは、-S-又は-N(CH<sub>3</sub>)であり、但し、PEG<sub>1800~2400</sub>とL-AAの和が64未満である場合、残りのQ及びY部分がHであることを条件とし、且つ少なくとも1つのQがL-AAであることを条件とする)。

[ 態様 4 6 ]

式(V)のデンドリマー：

【化88】



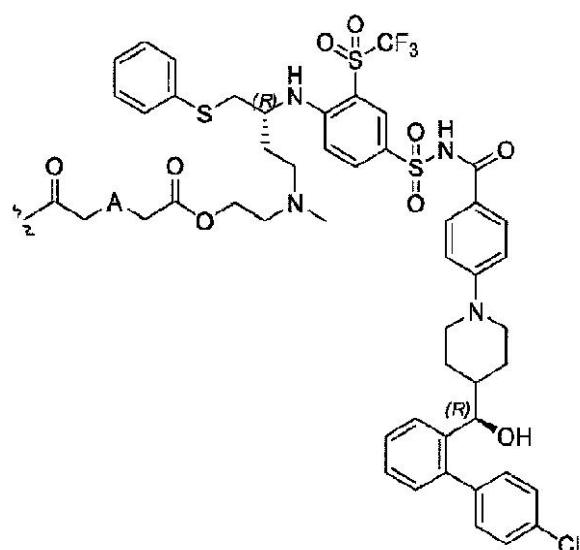
(V)

又はその薬学的に許容できる塩(式中

Yは、PEG<sub>1800~2400</sub>又はHであり;

Qは、H又はL-AAであり、ここで、L-AAは以下の構造を有し:

【化89】



Aは、-S-又は-N(CH<sub>3</sub>)であり、但し、PEG<sub>1800~2400</sub>とL-AAの和が64未満である場合、残りのQ及びY部分がHであることを条件とし、且つ少なくとも1つのQがL-AAであることを条件とする)。

[ 態様 4 7 ]

A が - S - である、態様 4 5 又は 4 6 に記載のデンドリマー。

[ 態様 4 8 ]

A が - N ( C H<sub>3</sub> ) である、態様 4 5 又は 4 6 に記載のデンドリマー。

[ 態様 4 9 ]

P E G<sub>1800 ~ 2400</sub> と L - A A の和が 50 ~ 64 の整数である、態様 4 5 ~ 4 8 のいずれか一つに記載のデンドリマー。

[ 態様 5 0 ]

P E G<sub>1800 ~ 2400</sub> と L - A A の和が 58 ~ 64 の整数である、態様 4 9 に記載のデンドリマー。

[ 態様 5 1 ]

25 ~ 32 個の P E G<sub>1800 ~ 2400</sub> を有する、態様 4 5 ~ 50 のいずれか一つに記載のデンドリマー。

[ 態様 5 2 ]

29 ~ 32 個の P E G<sub>1800 ~ 2400</sub> を有する、態様 5 1 に記載のデンドリマー。

[ 態様 5 3 ]

25 ~ 32 個の L - A A を有する、態様 4 5 ~ 52 のいずれか一つに記載のデンドリマー。

[ 態様 5 4 ]

29 ~ 32 個の L - A A を有する、態様 5 3 に記載のデンドリマー。

[ 態様 5 5 ]

0 ~ 14 個の水素を前記 Q 位及び / 又は Y 位に有する、態様 4 5 ~ 54 のいずれか一つに記載のデンドリマー。

[ 態様 5 6 ]

0 ~ 6 個の水素を前記 Q 位及び / 又は Y 位に有する、態様 5 5 に記載のデンドリマー。

[ 態様 5 7 ]

前記 P E G が約 2000 ~ 2200 Da の平均分子量を有する、態様 4 5 ~ 56 のいずれか一つに記載のデンドリマー。

[ 態様 5 8 ]

前記 P E G が約 1.00 ~ 1.10 の PDI を有する、態様 1 ~ 57 のいずれか一つに記載のデンドリマー。

[ 態様 5 9 ]

前記 P E G が約 1.05 の PDI を有する、態様 5 8 に記載のデンドリマー。

[ 態様 6 0 ]

約 90 ~ 120 kDa の分子量を有する、態様 1 ~ 59 のいずれか一つに記載のデンドリマー。

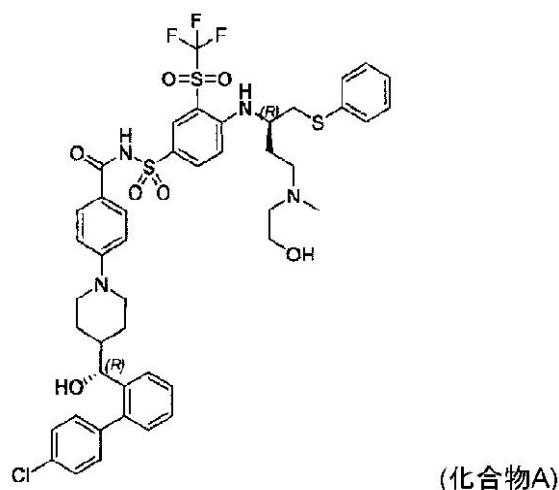
[ 態様 6 1 ]

約 103 ~ 107 kDa の分子量を有する、態様 6 0 に記載のデンドリマー。

[ 態様 6 2 ]

A A が化合物 A である、態様 1 ~ 61 のいずれか一つに記載のデンドリマー。

## 【化90】



## [ 態様 6 3 ]

態様 1 ~ 6 2 のいずれか一つに記載のデンドリマー又はその薬学的に許容できる塩、及び薬学的に許容できる賦形剤、担体、又は希釈剤を含む医薬組成物。

## [ 態様 6 4 ]

癌を治療する方法であって、それを必要とする対象に、有効量の態様 1 ~ 6 2 のいずれか一つに記載のデンドリマー又はその薬学的に許容できる塩を投与することを含む方法。

## [ 態様 6 5 ]

癌の治療に使用するための、態様 1 ~ 6 2 のいずれか一つに記載のデンドリマー又はその薬学的に許容できる塩。

## [ 態様 6 6 ]

癌を治療するための医薬品の製造に使用するための、態様 1 ~ 6 2 のいずれか一つに記載のデンドリマー又はその薬学的に許容できる塩の使用。

## [ 態様 6 7 ]

態様 1 ~ 6 2 のいずれか一つに記載のデンドリマー又はその薬学的に許容できる塩を含む、癌を治療するための医薬組成物。